

「させぼ温州」の樹体特性と葉の形質						
[要約] 「させぼ温州」の樹勢は、無毒化された若齡樹では強く、無毒化されていない高接ぎ樹で結実回数を重ねるとやや弱くなる。枝条の性質は直立しやすく、節間の短い枝が密生する。葉は緑色が濃く、小型で厚いが、葉面積指数は小さい。						
長崎県果樹試験場・常緑果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
平成10, 11年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

佐世保地域で「宮川早生」の枝変わりとして発見され、無毒化された「させぼ温州」の樹勢、枝葉の形質と着葉数及び着果数等の樹体特性を明らかにし、高品質果多収生産技術の確立に資する。

樹体特性現地調査園の概要

品種及び区分	樹 齢	マルチの有無	圃場の場所
させぼ温州若齡樹	6年生	有	江上地区北部
させぼ温州高接ぎ樹*	高接ぎ11年目	有	江上地区南部
原口早生	8年生	有	させぼ温州若齡樹の隣接圃場

\* 無毒化されていない

1) 比葉重（個葉の葉面積当たりの葉の乾物重）の測定について

「させぼ温州」の葉の正確な厚さを測定するため、厚さの指標となる比葉重を明らかにする。供試樹は、場内の6年生「させぼ温州」と対照として4年生「原口早生」、17年生「大津4号」、12年生「大津4号」を用いた。

[成果の内容・特徴]

- ① 「させぼ温州」の樹勢は「原口早生」に比べ、若齡樹は強いが、高接ぎ樹で結実回数を重ねた樹ではやや弱くなる。（表1）
- ② 「させぼ温州」は、枝条が直立で、枝が密生し、新しょうの節間は短い。（表1）
- ③ 「させぼ温州」の葉は、小型で、葉肉が厚く、緑色が濃い。比葉重については、「させぼ温州」は、「原口早生」「大津4号」に比べ重い。（表1、図2）
- ④ 「させぼ温州」の葉果比は、若齡樹では1果/54枚で、高接ぎ樹では1果/31枚である。（表2）
- ⑤ 「させぼ温州」の葉面積指数は、若齡樹が2.8、高接ぎ樹が3.4である。（表2）
- ① 「させぼ温州」の葉長、葉幅の積と葉面積との間には非常に高い相関（ $r=0.9985$ ）が得られ、葉面積は、 $y=0.443x$ の式で精度よく推定できる。「させぼ温州」の相関式の係数は0.443で、「原口早生」の係数0.6559より小さく葉の形の膨らみが小さい。（図1）

[成果の活用面・留意点]

- ① 「させぼ温州」は、短い枝が多数発生するうえに、結実しだすと枝の伸長が抑えられ、樹冠が拡大しにくいので、未結果期間に芽かき、誘引等の枝管理を行い樹冠拡大を図る。

[具体的データ]

表1 樹体特性

調査園	調査年	樹勢 (5段階)	枝条の性質 (4段階)	枝しょう の粗密 (3段階)	節間長 (mm)	1葉面積 <sup>*</sup> (cm <sup>2</sup> )	葉肉の <sup>γ</sup> 厚さ (mm)	葉色 <sup>*</sup>
若齡樹	10	強	直立	密	14.1	11.3	0.44	3.41
高接ぎ樹	10	弱	直立	密	14.0	8.2	0.35	3.41
原口早生	10	中	中	中	15.5	21.3	0.37	2.67
若齡樹	11	やや強	直立	密	13.6	14.0	0.40	3.30
高接ぎ樹	11	中	直立	密				
原口早生	11	やや弱	開張	中	19.2	20.6	0.32	2.71

- \* 葉長と葉幅の積と葉面積との相関式  
「させば温州」  $y = 0.443x$ , 「原口早生」  $y = 0.6559x$
- γ 富士平工業社製 農業用厚さ計による測定
- \* 富士平工業社製 クロロフィルテスターによる測定

表2 葉果比及び葉面積指数

(1999)

調査園	葉数 (枚)	着果数 (個)	葉果比	1果実重 (g)	収量 (kg)	葉面積 (m <sup>2</sup> )	葉面積 指数	樹冠占有面 積当り収量 (kg/m <sup>2</sup> )
若齡樹園	8,794	163	54.0	115	18.8	12.3	2.8	4.3
高接ぎ園	46,855	1,538	30.5	106	161.0	65.6	3.4	8.4

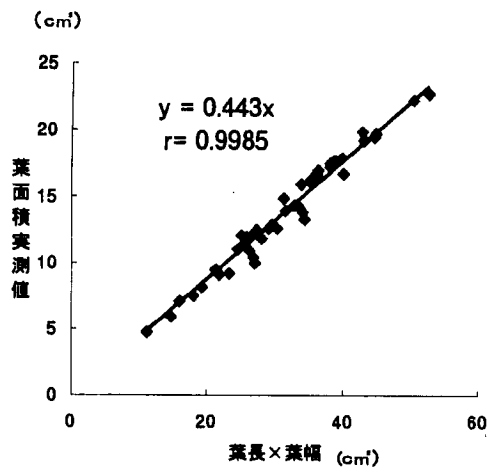


図1 葉長、葉幅の積と葉面積との関係

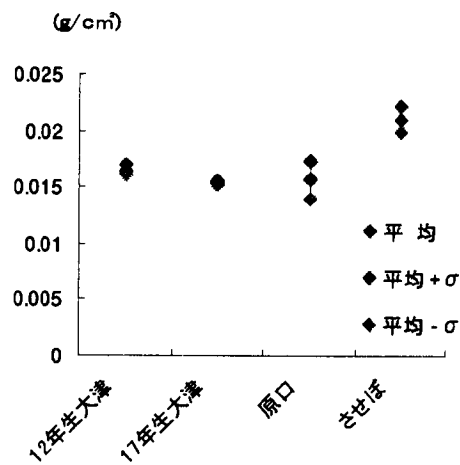


図2 春葉の比葉重の比較 (場内)

[その他]

研究課題名：させば温州の早期樹冠拡大と高品質果安定多収技術

予算区分：県単

研究期間：平成11年度（平成11～15年）

研究担当者：高見 寿隆

発表論文等：なし